

一 般 質 問

令和 8 年 3 月 9 日
第 1 回 広尾町 議会 定例会

通告 順序	議席 番号	質 問 者
1	10	前 崎 茂
2	2	尾 矢 利 昭
3	6	松 田 健 司
4	3	大 庭 克 彦
5	4	雄 谷 幸 裕

通告順序1 質問者：前崎 茂

1. 国保病院の経営状況について

広尾町立国民健康保険病院が独立行政法人化してから、今年度で7年目になる。

厚生労働省は昨年11月に行われた中央社会保険医療協議会の総会で、令和6（2024）年度一般病院の決算にて72.7%が赤字経営になっていると報告した。このような状況の下、厚生労働省は本年6月の診療報酬本体を3.09%に改定するとし、令和6（2024）年の0.88%からみても大幅な引上げをしようとしている。

このことから、以下の4点について伺う。

- （1）今回の診療報酬改定に伴う国保病院の収支計画の見直しは
- （2）連携病院の支援体制により医療スタッフの確保を図ってきたが、看護師数は目標の35人に対し、令和6（2024）年度は26人であったが、現状と今後の見通しは
- （3）第2期中期目標で「人工透析診療体制を構築する」としていたが看護師不足により削除された。患者ニーズも高いことから、今後の展望は。
- （4）病院経営を圧迫する要因の一つに、医療機関では医療機器や医薬品購入時に消費税は医療機関で負担するが、保険診療は非課税のため、患者から徴収できない「損税」となっている。令和元（2019）年度～令和6（2024）年度までの損税累計額は。また、併せて国に損税解消の要望をすべきと思うが。

2. 鉄道記念公園パークゴルフ場の拡充整備について

本町の65歳以上の高齢化率も40%を超えているが、介護認定率は管内でも低く健康保持に努めている高齢者が多いことを示している。

その健康保持の一つとして、健康な方以外でも腰痛や膝痛のある人が芝生のパークゴルフ場だと利用しやすいとしている。しかし、鉄道記念公園パークゴルフ場は狭隘で、利用者が多いときはプレーしづらいとの声が寄せられている。

現在、新しい公園が整備中であるが、隣接地を拡張し、パークゴルフプレー中にトラブル等支障がないように、パークゴルフ場の利用増が見込まれる下、整備する必要があると思うが。

通告順序2 質問者：尾 矢 利 昭

1. 広尾高校の存続に向けた取組状況とそれに関連した部活動の地域展開について

以前、「広尾高校存続について」の一般質問をした際、私の意図は、様々な高校の事例を紹介し、子どもが自ら広尾高校に行きたいと思える取組を行おうということであった。また、昨年の高校生議会の中で、高校存続・魅力向上についての質問があり、さらに令和9年度入学者から全国募集が始まるタイミングでもある。

そこで、以下の2点について伺う。

(1) 全国募集は目前に迫っているが、本町の広尾高校の魅力向上に向けた取組状況はどうなっているのか

(2) 高校生議会でも質問のあった「広尾高校のPR方法」についてどのように進めていくのか

部活動の地域展開について、前段の広尾高校の魅力向上にも関連するが、現在、国では「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」を策定し進めている。部活動の地域展開は課題が山積しており、今すぐに議論を始めてもすぐに答えが出るものではない。しかし、本町にとって高校存続問題のなか、魅力向上に取り組み、全国募集が始まるタイミングでこの部活動の地域展開は逆にチャンスであると思う。

そこで、以下の2点について伺う。

(1) 本町の部活動の地域展開について、現段階での検討状況と今後のスケジュールについて

(2) 指導者確保について、どこまで議論が進んでいるのか

通告順序3 質問者：松田 健司

1. フンベの滝周辺でのメガソーラー施設開発事業について

フンベの滝周辺で計画されている太陽光発電事業について、F I P制度に基づく積立金と、実際に必要となる撤去費用及び原状回復費用との間に大きな乖離が生じる可能性が指摘されており、事業者の撤退や倒産時には住民負担が発生する懸念がある。

については、住民負担リスクの回避という観点から、以下の2点を伺う。

- (1) 本町として算定した撤去費用・原状回復費用の概算について
- (2) 追加の担保措置の必要性及び事業譲渡時における担保の継承について

1. 政策公約の実現に向けた進捗と評価及び今後の取組について

田中町政がスタートしてから2年が経過しようとしているが、この間、人口減少対策として掲げた小中学校の給食費や保育料の無償化、修学旅行費の助成などの子育て支援や、広尾高校存続に向けた魅力向上対策、物価高対策など精力的に取り組んできたことは、多くの町民が認めると事である。一方、本町の人口は昨年12月末時点で5,732人と前年から147人が減少し、年間出生数は過去最低の12人となっており、人口減少に歯止めがかかっていない状況である。

この状況を鑑み、一部住民からは、子育て世代への支援は人口減少対策の要であることは理解するが、移住定住対策や少子化対策、道の駅やキャンプ場の整備、高齢者の活躍の場の創造などの取組が見えてこないとの声もある。

任期の折り返しである現時点での政策実現に向けた取組の進捗及び評価、今後の取組に対する考え方など、次の事項について町長に伺う。

(1) 移住定住対策について

- ① 現在、本町が行っている移住定住対策の取組と効果及び今後の取り進めに対する考え方について
- ② 現在、国が推奨している二地域居住の促進について、新たな移住対策として積極的に取り組むべきと考えるが、取り進めに対する考え方について

(2) 少子化対策について

- ① 出生数が減少している要因と、現在本町が行っている結婚支援に向けた取組及び効果、今後の対策について

(3) 高齢者が活躍できる機会を創出する仕組みづくりについて

- ① 高齢者が積極的に社会活動及びまちづくりに参加し、生きがいを感じられる機会の創出に向けた取組について
- ② 会計年度任用職員の募集年齢条件を65歳未満としている理由について

(4) 道の駅及びキャンプ場の整備に向けた検討について

- ① 関係人口の増加を目的とした道の駅の建設及びキャンプ場の再整備に係る関係団体等との協議、町民からの意見聴取など、今後の取り進め方について

通告順序5 質問者：雄谷 幸裕

1. 町政執行方針について

町政執行方針中の以下の4つのうち、令和8年度に最優先で取り組む施策は何かを町長に伺う。

- ・集いの杜プロジェクトの推進
- ・広尾高校の魅力を高める取組の推進
- ・買い物足の確保
- ・行政事務におけるDXの推進